



toyama
design
wave

富山で生まれる、次のデザイン。



2017



CONTENTS

- 04 デザインコンペティション
富山デザインコンペティション2017
「道具と生活」
- 12 ワークショップ
とやまデザイン・トライアル
ワークショップ2017
「真鍮鑄物のプロダクト」
- 15 商品化プロジェクト
Interior Lifestyle Tokyo 2017 出展
お守り福笑【おまもりふくえ】
- 17 企画展
「新しいスキームデザイン」展
- 21 デザインセミナー
オランダのデザインと生活…価値観を探る
講師/ナタリー・デュボワ 中條永味子
- 25 イベント
富山県内のデザイン関連イベント
工芸都市高岡2017クラフト展
富山デザインフェア2017
第57回富山県デザイン展

※敬称略

富山から世界へ発信するデザインムーブメント

toyama design wave 2017

近年、人々の価値観やライフスタイルが多様化し、ものづくりには、高い機能性や低コストであることに加え、生活に潤いやゆめりを与える優れたデザインであることが求められるようになってきています。

このため、富山県では、デザインの振興に早くから着目し、総合デザインセンターを中心に、デザイン性に優れた商品の共同開発や販路開拓の支援、デザイン人材の育成など、幅広い取組みを進めてまいりました。

なかでも、このデザインウェーブ事業は、「富山から世界

に発信するデザインムーブメント」として平成2年に開始し、今回で28回目を迎えました。優秀な作品の商品化を支援する「富山デザインコンペティション」を核とし、ワークショップ、展示会など、多彩な企画を実施しており、平成21年には産業活性化を目的としたデザインイベントとして、グッドデザイン賞を受賞するなど、全国的にも高い評価をいただいています。

今回の「富山デザインコンペティション」では、「道具と生活」をテーマに、私たちの生活を取り巻く環境が日々進化する

るなか、現代の生活様式に合った道具のあり方を見つめ直した作品を募集し、県内外から227点の応募をいただきました。10月には公開審査会を行い、この中から「とやまデザイン賞」等を決定したところです。

このデザインウェーブが、ご参加いただいた皆様とともに、デザインの新たな方向性を見出すきっかけになるとともに、デザインの振興、ひいては産業の発展に大きく貢献することを心から期待しています。

デザインウェーブ開催委員会 会長 石井 隆一



TOYAMA DESIGN COMPETITION 2017

富山デザインコンペティション2017



テーマ 道具と生活

室内、室外を問わず、私たちは数多くの道具に囲まれ生活しています。

私たちの生活は日々進化していますが、現代の生活のなかで置き去りにされてきた道具も多くあり、今改めて、道具のあり方を見つめ直したいと考えます。

今回の富山デザインコンペティションでは、富山のリソースを活用した、「道具と生活」のプロダクトを募集しました。

今回で24回目を迎える、「富山デザインコンペティション」。全国で初めて「商品化」を支援するコンペとしてスタートし、これまで40点以上の商品を世に送り出し、その中からいくつものヒット商品が生まれてきました。

応募作品227点の中から選定された12作品のプレゼンテーションと2次審査が10月23日(月)、ホテルニューオータニ高岡で開催され、会場は多くの来場者で賑わいました。

〔審査評価基準〕

- 独創性** 斬新で、デザイナーの個性が反映されたものであるか。
- 市場ニーズ** 今の時代に適合し、市場が求めているものであるか。
- 美的価値** 造形として美しいものであるか。
- 商品化の可能性** 製造方法が現実的なものであるか。

〔審査員〕

- 安積 伸**
プロダクトデザイナー／法政大学教授
- 川上 典李子**
デザインジャーナリスト
- 鈴木 マサル**
テキスタイルデザイナー／東京造形大学教授

〔ファシリテーター〕

- 桐山 登士樹**
富山県総合デザインセンター 所長

〔アドバイザー〕

- 岡 雄一郎**
富山県総合デザインセンター プロジェクトリーダー

SCHEDULE

- 1** 4月28日～8月1日
応募登録、作品シート受付
(応募作品227点)
- 2** 8月8日
1次審査
応募された作品シートの中から、1次審査通過作品12点を決定。審査結果は8月10日にウェブサイトにより発表。1次審査通過者には、2次審査で提出してもらう模型の制作に5万円を支援。
また、模型制作のアドバイスを協力してくれる企業の調整などの支援を実施。
- 3** 10月23日
2次審査、授賞式、意見交換会
2次審査に進んだ12組のデザイナーによる模型を使ったプレゼンテーションが行われ、コンセプトの伝わりやすさ、アイデアの実現性、商品としての完成度などを審査。質疑応答では、審査員がさまざまな角度からデザイナーに質問や意見を投げかけた。
公開審査で各賞を決定し、その後授賞式が行われた。参加したデザイナー、審査員、企業のトップや商品開発担当者との意見交換会を開催。
- 4** 11月13日～26日
富山デザインウエーブ2017デザイン展
富山デザインウエーブ展示会で、2次審査を受けた12作品を展示紹介。
- 5** 12月～
商品化支援
商品化に向けて企業とのコラボレーションや販売開拓を支援。

とやまデザイン賞



準とやまデザイン賞

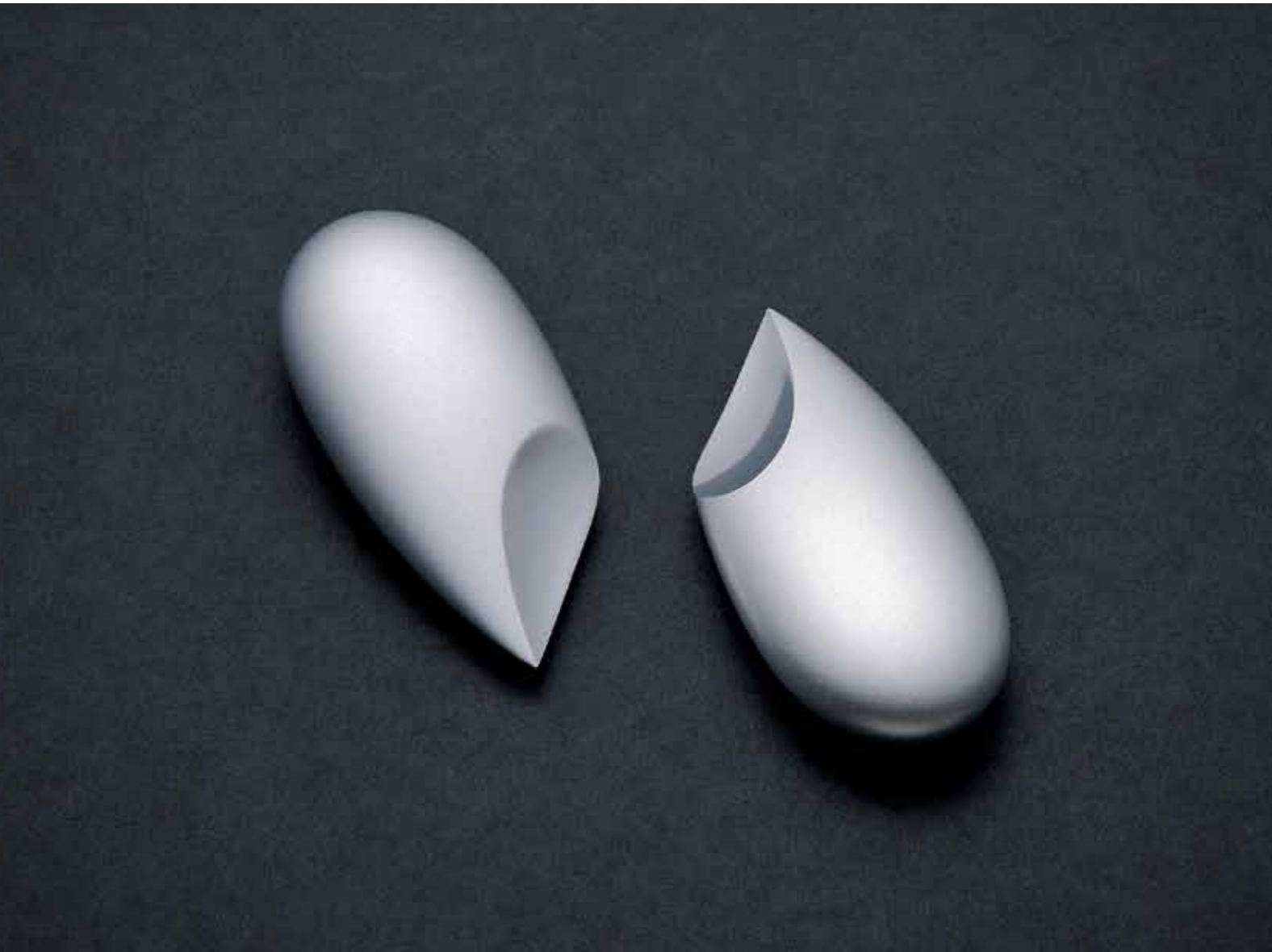
お祈りの
折り祈り

神社やお寺にある賽銭箱はカッターの刃を差し込んで折りたたくような雰囲気を持っているのではないかと思ったことをきっかけにデザインしました。これまで頑張ってくれた刃を労い賽銭代わりに折り入れ、作業の成功を祈る刃折り器です。



永田 勇介

1994年兵庫県生まれ。東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科卒業、同大学大学院福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻在籍。



lapis

この『lapis』は、ラテン語で「石器」という意味のボックスオープナーです。アマゾンをはじめとしたネットショッピングの普及で私たちの生活は大きく変化しました。同時に、商品を包む箱や段ボールを開ける機会も急増したといえます。この『lapis』は、そんな箱を開けることに特化したボックスオープナーです。石器のように手の内に馴染むため最小限の力で箱を開けることができ、中の商品を傷つけるリスクも減ります。また、プリミティブで美しい形状は、机や棚の上においてもオブジェのように空間に溶け込むので、文具入れにしまうことなく、すぐに使うことができます。



YURI

2015年平田昌大と平田綾子によりYURI設立。グッドデザイン賞、ドイツIF Design Award等受賞多数。

黒木靖夫特別賞



なでるふとんたたき

『なでるふとんたたき』は、ふとんたたきの需要が少なくなっている現代にあつたブラシをメインとしたふとんたたきです。つまみ部分をスライドする事で、通常のふとんたたきとしても使用可能です。ふとんたたきの形状が折りたたみ式なので、コンパクトに収納できます。行為としては必要ですが、現代の生活では上手く機能を果たせなくなった道具を丁寧に直し、現在の生活に馴染むよう提案し直しました。



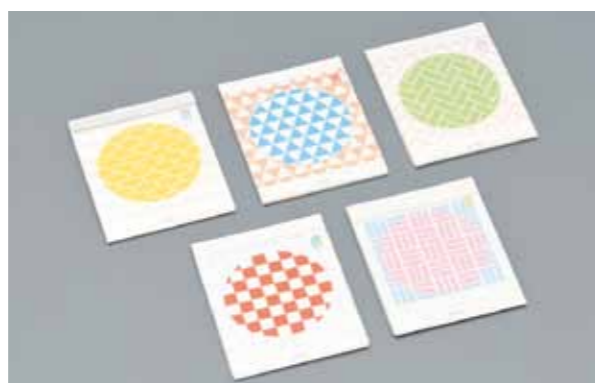
神原 葵

2015年多摩美術大学美術学部生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻入学。素材と機能に着目してデザインを考えています。素材を生かして何が出来るか考えるのが好きです。また、何度も検証、改善を繰り返し、機能に沿ったかたちを目指しています。

2次審査対象作品

KAISHI

日本に平安時代からある「懐紙」。現代人にはあまり知られていない道具ですが、私たちに侘び寂びというものを改めて教えてくれるような道具です。そんな懐紙をもっと多くの人に使ってもらいたい、日常生活の中でもっとたくさん侘び寂びという日本ならではの美意識に触れてもらいたい、そんな思いから私たちにとって「敷居の低い、身近な懐紙」を作ろうと考えました。また、中の懐紙だけでなくカバーにも、丈夫さが特徴の五箇山和紙を使用し、より和紙の質感を手で触れて感じられるようにしました。



MIYUKI

洗って繰り返し使えるアルミ製のアロマプレートです。アロマオイルはエジプトから伝わり、現在では多くの人々が利用しています。私は香りを生活の道具と捉え、アルミのアロマプレートをデザインしました。従来のアロマストーンだと違うオイルは使えず、色の付いたオイルを使うとその色が染みついてしまいます。『MIYUKI』は表面にのみオイルが広がるので洗えば繰り返し使えます。更にアルミは抗菌作用があるので清潔に使うことができます。



MAME SAJI

コーヒー1杯分の豆が測れるメジャースプーンです。自立するので豆が触れる部分を清潔に保て、置き場所にも困りません。アルミの美しい曲面の魅力が際立つ丸くて優しい形は、コーヒーの果実がモチーフです。どこか愛嬌を感じるシルエット、コーヒーにまつわるCMF、豆の形をした固定ネジなど、プロダクト全体を通じてコーヒーの世界観が感じられ、愛着を持って使い続けられるよう、気を配ってデザインしました。



CHA-SEN

茶道具「茶筌」がモチーフのティーバッグを使用する際のおもてなし道具です。茶道の本来の目的は「人をもてなす際に現れる心の美しさを表すこと」ですが、『CHA-SEN』はそのような茶道の所作を日常生活に落とし込んだ道具です。日常生活で客人をもてなす際に「人を温かく迎えるおもてなしの心」を体現することは茶道の美しい所作に通じます。今までティーバッグでのお茶の提供は簡易的でお客の前では隠す行為でしたが、『CHA-SEN』を使用することでティーバッグでのお茶の提供がスマートで美しいおもてなしに変化します。



青木 春佳

1996年生まれ。2015年滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科入学。道具デザイン領域を専攻、グラフィック作品を主に制作。



片山 謙

多摩美術大学卒業。素材の特徴を生かしたデザインを得意とする。既存の発想にとらわれず、素材の新しい使い方を研究し、新たな可能性を人々に気づかせることを目標としている。LEXUS DESIGN AWARD、A'design award受賞。



川口 裕太

1983年奈良県生まれ。京都工芸繊維大学大学院デザイン経営工学専攻修了。2008年よりデザイナーとして電機メーカーに勤務。11年より京都造形芸術大学非常勤講師。



谷口 武嗣

2009年バンタンデザイン研究所プロダクトデザイン科卒業。10年デザインオフィスnendoディレクター・デザイナーとして勤務。15年デザインスタジオoboroを立ち上げフリーランスで活動中。第2回繊維リサイクルアイデアコンペティション審査員特別賞、ACMEデザインコンペ14 BRONZE等を受賞。

かたしぐれ
方時雨

室内にコンパクトに置いておくことができ、且つインテリアのアクセントにもなる新しい形のじょうろ。傾ける方向によって水の出し方を調節し、方時雨(空の一方では時雨が降りながら一方では晴れている様子)のように水をやることのできるのが特徴です。抗菌作用が強く錆びにくい素材である錫を用いることで、より長く清潔に使うことができます。素材の持つ重量感と独特の質感や存在感によって水やりの意義を意識させるきっかけを与えられればと思っています。



砂田 安菜

1994年富山県生まれ。高校卒業後イタリアに渡り、ミラノのIED (Istituto Europeo di Design) プロダクトデザイン学科に入学。主に家具や家電のデザインを学び、2016年に卒業。

gingo

真鍮は酸化すると、金から落ち着いた茶へ、色が変化します。この特性を活かした銀杏の葉が色づくペーパーウェイトです。時計よりも長い時間軸を持つ葉の色の移ろいは、日々の中にゆったりした時間を作り出します。また銀杏は二つの葉が割れて一枚になっている様から、愛の象徴とも言われています。二人の記念日のギフトに使って頂くことで、二人で歩んだ時間を写し、幸せを感じることでできるプロダクトです。



千頭 龍馬

1990年岡山県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科に在学中。インスタリアルデザインについて学んでいます。モノと人と空間の関係について考えながらデザインしています。

ストレート・ハンマー

DIYや組み立て家具が増えており、プロ以外の人が道具・工具を使う機会が増える一方で、「収納」について考えられていないモノが多いと感じました。ドライバーやレンチなどは長細く、大きな工具箱でなくても入れやすい。しかし、ハンマーは横に突き出た頭の部分が、大きくない工具箱では邪魔になります。そこで、頭の部分が回転することで、ストレートになるハンマーを考えました。



坪田 将知

デザイナー。京都精華大学卒業後、2011年よりメーカーでインハウスデザイナーとして勤務。プロダクト、グラフィック、パッケージ、ロゴデザインなどを行っている。人の行動や価値観を変えるデザインを目指して活動中。

Flatch

レジ袋の中でお弁当が傾き、煩わしさを感じた経験が誰しもあると思います。おかずが片寄ったり、汁が漏れたり、そんな不満を解消する道具です。石を模した形状は、「原始人だったら？」という原初的な視点から着想をしました。過去の時代は制約があるが故にシンプルで、それ故に本質に近づきます。道具は本来、生活に添うものです。しかし複雑化する現代では、原初的な道具が豊かな生活を考えるヒントになるのではないのでしょうか。



藤原 隆太郎

1986年宮崎県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業。福岡にて店舗設計に従事。

Thin Hourglass

『Thin Hourglass』は砂が織り成す流動的な模様を楽しめる、極限まで薄い砂時計です。砂時計の中に2種類の砂が入っており、回転させることで砂の模様が変わります。台座にある窪みにはめるだけで安定して置くことができ、角度を変えることで砂時計の異なる表情を見ることができます。薄くすることにより砂時計に軽やかさが生まれ、回転させたいと感じる形状にしました。



三島 大生

1992年東京都生まれ。2016年イタリアのNABAに交換留学し、17年イギリスのUCA芸術大学プロダクトデザイン学部を首席で卒業。在学中から国内外の展示やコンペに積極的に参加。現在はプロダクトデザインを中心にフリーランスとして活動中。

コンペを振り返って

テーマの選定から一般公開の2次審査までを担った3人の審査員と富山県総合デザインセンター所長に、今年の応募作品や審査方法、今後のコンペティションに期待することなどを伺いました。



安積 伸

プロダクトデザイナー／法政大学教授

プロフィール

京都市立芸術大学卒業後、NECデザインセンター勤務を経て、1994年英国王立美術大学修士課程修了。その後ロンドンを拠点とし95年よりデザインユニット「AZUMI」として活動、2005年に個人事務所「a studio」設立。T-fal(仏)やlapalma(伊)など多くの国際的企業でプロダクトデザインに携わる。FX国際デザイン賞「プロダクトオブサイヤー」(英)をはじめ国内外で数多くの賞を受賞。審査員としてもIF賞(独)などに参加。「LEM」スツールがV&A博物館(英)のパーマネントコレクションに選ばれるなど、各地の美術館に作品が収蔵されている。16年より日本に拠点を移し、法政大学デザイン工学部システムデザイン学科教授に就任。

憧れをかき立てられるデザインに着目

今回の応募作品はいずれも完成度が高かった。そのまま商品化できるほどの水準に達している作品も多くあり、とても難しい審査となった。また、着眼点を評価すべきか、モノとしての完成度を評価するののかについても、悩ましい思いをした。審査で注目したのは「憧れをかき立てられる」デザインかどうか、という点だった。

とやまデザイン賞に輝いた「lapis」は、形状のオリジナリティ、目の付け所、社会的背景、モノとしての完成度が抜きん出ており、またポリカーボネートなど違う素材にも展開していけそうな広がりを感じた。

黒木靖夫特別賞の「なでるふとんたたき」は、完成度には改善の余地があるものの、モノに対する根源的な感情、ときめきを喚起する力を感じた。



川上 典李子

デザインジャーナリスト

プロフィール

「AXIS」編集部を経て1994年に独立、企業やデザイナーの取材を行っている。主な著書に「リアライジング・デザイン」(TOTO出版)、共著に「ウラからのぞけばオモテが見える」(佐藤オオキ氏との共著、日経BP)、編書に「天童木工」(美術出版社)など。国際交流基金主催「WA:現代日本のデザインと調和の精神」(2008年~11年6か国で開催)、「現代日本のデザイン100選」(14年~)などデザイン展のキュレーションにも携わる。「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ2016」日本公式展示アドバイザー・コミッティー、キュレトリアル・アドバイザー。染沢デザイン研究所非常勤講師、長岡造形大学非常勤講師、首都大学東京大学院特別講師。21_21 DESIGN SIGHTアソシエイト・ディレクター。

人間そのものへの理解が魅力をつくる

“道具と生活”は、デザインの大切な骨格を競うテーマでもあった。「道具」のデザインには、デザイナーの実力が現れる。2次審査に残った作品はいずれも、ていねいなリサーチを踏まえ、モノの背景にも踏み込んでデザインされたものばかり。審査は、その道具を使うことへのワクワク感に注目して行った。

「Lapis」については、モノとしての完成度は言うまでもなく、「ボックスオープナー」という使用目的に焦点を絞ったコンセプトの「潔さ」に感服した。また「持ちたい」という気持ち呼び起こす造形力の高さも素晴らしかった。黒木靖夫特別賞の「なでるふとんたたき」も、手にとりたくなる独自の魅力に溢れる。現代ではあまり使われなくなっている道具を見直し、新たな道具を提案している経緯も評価したい。

準とやまデザイン賞の「折り祈り」は、人と道具の関係を精神的な面からも深く見直す契機を提案している作品だと思った。



鈴木 マサル

テキスタイルデザイナー／東京造形大学教授

プロフィール

多摩美術大学卒業後、栗辻博デザイン室に勤務。独立後、2005年からファブリックブランドOTTAIPNUを主催。自身のブランド以外にも、マリメッコ、カンパール、アルフレックスジャパンなど多くのブランドから作品を発表。14年、青山のスパイラルガーデンで個展「鈴木マサル展」を開催。15年、北日本新聞の紙面を柄でラッピングする企画「富山もよう」のデザインで第35回新聞広告賞、新聞社企画部門を受賞。16年のミラノサローネに出展したアイシン精機のブースのインスタレーションでMilano Design Award 2016、ベストエンゲージメント賞を受賞。現在、有限会社ウンビアット取締役、東京造形大学教授。

伝わってくる「熱量」がそこにはあるか

今年で3回連続して審査員を勤めたが、参加者のプレゼンテーション能力の向上に驚きを感じている。プレゼンが上手いのは良いことだが、心に刺さるものがあるかどうか。審査では、拙くてもグッと伝わってくる「熱量」がそこにあるかどうかに着目した。

準とやまデザイン賞を受賞した「折り祈り」は、必ずしも上手なプレゼンではなかったが、使ってきたカッターの刃を「折り、折り入れ、作業の成功を祈る」というフレーズが心に刺さり、そこに作者の強い思いを見た。カッターの刃を折るという行為を変えてしまえる、そんな力を持つ道具だと思った。

「なでるふとんたたき」には、民芸品を手にした時のような満足感を覚えた。壊れても直して使いたくなる、モノへの根源的な愛着を喚起するようなデザインだった。



デザインコンペを振り返って

今回で24回目となった富山デザインコンペティション。若手デザイナーの登竜門として、県内企業とのマッチングの機会として十分な実績を重ねて来た。そして、毎回悩むコンペテーマを「道具と生活」とした。

様々なモノの溢れる成熟化した社会の中で、果たしてこれ以上の商品開発が必要だろうか？必要とされるならどんな商品が、多様化する社会の中で求められるのだろうか？これからの価値や率直な欲求について自問自答を繰り返し、審査員とともにテーマを決定した。

まずは、多くの方の参加エントリーに対して御礼を申し上げたい。そして、三人の審査員に御礼を申し上げたい。というのも富山のコンペは難易度が高く、審査プロセスも過酷である。何故ならば、選ばれたデザインだけではなく、ファイナリストデザイナーの力量や将来性も見せていただいている。それはこれからの時代は、新たな価値を創出できるイノベーションデザイナーしか生き残れない、新たな可能性とスキームの時代に遭遇しているからである。



富山県総合デザインセンター 所長 桐山 登士樹



TOYAMA DESIGN TRIAL WORKSHOP 2017

とやまデザイン・トライアルワークショップ2017

テーマ 真鍮鑄物のプロダクト

武蔵野美術大学の学生を招いた「とやまデザイン・トライアルワークショップ」が、7月28日(金)から3日間の日程で開催されました。



1日目 企業視察と文化体験

武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科の4年生8名と、研修旅行で富山県を訪れている同学科1~4年生の37名が参加して、高岡市の企業視察および伝統文化体験会が行われました。

一行は2組に分かれ、小泉昇邸(高岡市金屋町)での茶道体験に続き、(有)モメンタムファクトリー・Orii(同市長江)、(株)二上(同市長慶寺)での工場やショールームを見学。その後、高岡山 瑞龍寺を訪問・見学しました。



2,3日目 ワークショップ

2日間にわたって、高岡市デザイン・工芸センターで真鍮製品づくりのワークショップが行われました。参加した工芸工業デザイン学科の4年生は、4月中旬から7週間の授業の中で職人に直接指導を受けながら、コンセプト立案からデザイン提案まで行いました。自分たちがCAD等でデザイン・設計してきた図面をもとに、事前に富山県総合デザインセンターにて原型を制作し、今回型づくり、鑄込み、着色・研磨など一連の作業に取り組みました。最終日には、同センター会議室で製品のプレゼンテーションが行われ、(株)二上の二上社長などから講評やアドバイスがなされました。

学生の作品は、11月13日~26日に県産業高度化センターで開催された「富山デザインウエーブ2017デザイン展」で展示され、2018年2月には都内で発表会も行われる予定です。

概要説明



型作り



原型をもとに、ガス鑄型を製作。

鑄造



溶かした金属を型に流し込んでいく。流し込んだ金属が固まれば、型をばらす。

研磨・仕上げ



機械やサンドペーパーで研磨し、仕上げていく。

完成

アドバイザー講評 **二上 利博** 株式会社 二上 代表取締役社長

今回は図面の段階で、皆さんが考えたデザインがどうすれば上手く形になるか、それぞれのデザインに適したやり方、やりやすい方法を、造り手の立場からアドバイスさせていただきました。しかし、今後皆さんがデザイナーとしてやっていくときには、そうした造り手の事情は理解しつつも、それを捨ててほしいと思うのです。でない造りやすいもの、やりやすい物しかできない。自分の表現を抑えてしまうことになる。表現したいものを表現していく、制約にとらわれないものづくりを志すことを忘れてほしいと思いました。

作品介绍



38° tape dispenser テープカッター

「38° tape dispenser」は直線の生み出す無駄のない美しさを追求したテープカッター。空間を切り取るかのような造形により、デスクに強い存在感を示します。ローター部分を鏡面にすると、まるで円が浮いているかのような錯覚を作り上げるデザインとなっています。ローターには真鍮ならではのしつかりとした重みがあり、今までのテープカッターにはないエレガンスな回転を実現しています。

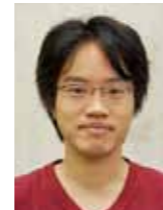
辻永 彩夏
Ayaka Tsujie



OMAME 小物入れ

豆のさやが持っている有機的な美しさと機能性を金属で表現しました。

伏木 一浩
Kazuhiro Fusegi



月のひかり キャンドルホルダー

寝る前にリラックスタイムに使うキャンドルホルダーを提案しました。ろうそくの炎の揺らぎを月の光に変換し、月光浴を行うことができます。精神状態を穏やかにし、豊かな眠りへと誘います。リングの内側を鏡面に、外側をざらつとしたテクスチャーにしました。質感の違いにより光の反射率が変わるため、ろうそくに炎を灯すと内側にほわっと光る三日月が現れます。炎の揺らぎと共に月の光も揺らぐため、リラックスして眠れます。

熊野 紗瑛
Sae Kumano



yuragi トレイ

「揺らぎ」を映し出すトレイ。物を置く、取るという1日の転換点を生む行為を促します。同時に(空間の)外と内に生まれる「揺らぎ」を体現する事で、1日の始まりと終わりの転換点をイメージさせます。

中村 真
Shin Nakamura



Saboten プランター

サボテンや小さい植物を植えられるプランターです。「ウチワサボテン」をモチーフとして、サボテンの面白さが感じられるように表面処理をしました。上部は真鍮の素材をそのまま活かし、側面は黒染めすることで、落ち着いた雰囲気的空間にもマッチするデザインのプランターです。

朴 信喜
Shinhi Paku



drop 傘立て

長傘と折りたたみ傘を1本ずつ収納できる傘立てです。一人暮らしの人が玄関に置くことを想定して制作しました。同じ場所に2種類の傘を収納することで、出掛ける前にどちらを持って行こうか選びやすくなります。カバンに入れっぱなしになりがちなたたみ傘は、使うカバンを変えた時に持ち歩き忘れるということがよくあります。しかし、この傘立てで折りたたみ傘にも決まった置き場を作ることにより、そのようなことを防ぎます。

中村 優里
Yuri Nakamura



Voronoi ブックスタンド

真鍮の比重の大きさを活かし、大切にしている本のためのブックスタンドを提案します。造形はポロノイ図という結晶の模様や細胞の構造など、自然にみられる形を参考にしました。複数のバリエーションを出すことで、自分の本のためだけのブックスタンドを楽しみながら選ぶことが出来ます。また側面は垂直な面で構成することで、本を好きな面を使って飾ることが出来るようにしました。

千頭 龍馬
Ryoma Chikami



nest ジュエリーラック

知能が高い鳥が光り物を巣に持ち帰る習性をイメージしたジュエリーラック。ジュエリーの置き場に困ったり、どこか置きっぱなしにして無くしてしまった経験はないだろうか? 「nest」はそんな問題を解決するために生まれたジュエリーラックです。自身のジュエリーを好きな場所に置いたり、引っ掛けたりすることでオリジナルの巣が出来上がります。また、真鍮の鏡でピアスやネックレスの位置調整ができるデザインになっています。

木村 紗也佳
Sayaka Kimura



Interior Lifestyle Tokyo 2017



「富山デザインウェブ」出展

東京から世界へ向けてライフスタイルを提案する、国際見本市「インテリアライフスタイル」。6月14日(水)～16日(金)にかけて東京ビッグサイト(東京国際展示場)で開催された国内最大級のインテリア・デザイン市場のイベントに、「富山デザインウェブ」として初出展しました。

「インテリアライフスタイル」は、世界最大級の国際消費財専門見本市「アンビエント」(ドイツ・フランクフルト)と、家庭用・業務用テキスタイルの国際見本市「ハイムテキスタイル」(同)の2つを母体とする、国内では最大級の国際見本市。11月に開催される「IFFT/インテリアライフスタイルリビング」と並ぶ見本市として、国内外の多くの関係者で賑わう国内屈指のイベントです。

来場者は主に、小売店や百貨店などのバイヤー、デザイン関係者、建設・住宅関連業者、ホテル関係者など。本年度は3日間で2万7千名あまりの来場者が訪れました。

「デザインウェブ開催委員会(構成団体:富山県、富山市、高岡市)」は、富山のデザイン商品や活動を広く紹介する目的で初出展し、デザイン先進県富山をアピールしました。出展ブースには、富山デザインコンペティション2016作品をはじめ、過去のコンペ参加作品やデザインワークショップ作品などを展示。バイヤー等からの評価や販路開拓を図りました。同時に「富山デザインコンペティション2017作品募集」についてのPRも行いました。

Interior Lifestyle Tokyo 2017 開催概要

| | |
|------|--|
| 会期 | 2017年 6月14日(水)～16日(金) |
| 会場 | 東京ビッグサイト(東京国際展示場) |
| 主催 | メサゴ・メッセフランクフルト(株) |
| 出展者数 | 787社/22カ国・地域(国内:645社、海外:142社) |
| 来場者数 | 来場者数:27,573/38カ国・地域(国内:26,587名、海外986名) |
| 後援 | 経済産業省 独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)他 |



デザインウェブ事業では、これまで40点を超える作品が商品化され、いくつものヒット商品も生まれています。今年度は、富山デザインコンペティション2016で準とやまデザイン賞に輝いた「お守りホイッスル」が「お守り福笑」として商品化されました。



富山デザインコンペティション2016 準とやまデザイン賞受賞作品

お守り福笑【おまもりふくえ】

デザイナー/柏木玲子
製造/(有)小野沢家具店
価格/家内安全タイプ(2,000円・税別)
合格祈願タイプ(2,200円・税別)

小野沢家具店(富山市)が商品化、12月から発売。

柏木玲子氏の「お守りホイッスル」は、お守り札のように身に着け、万が一の災害時には助けを呼ぶためのホイッスルにもなるという作品。「これを使う日がきませんように」「何があっても助かりますように」との願いを込め、大切な人へのギフトとして企画されました。地震大国・日本と向き合ったソーシャルデザインとしての側面が高く評価され、受賞につながりました。

この作品の商品化に取り組んだのは、富山市の小野沢家具店。柏木氏考案による「お守り」タイプに加え、柏木氏との商品づくりの過程で誕生した「合格祈願」タイプの2種類で商品化。まずは「蔦屋家電(東京)」、県内では「米三ディー・スクエア」で期間限定販売を始めました。



富山デザインコンペティション2016 提出作品

商品化のポイント

商品は一見すると一枚板のように見えますが、ホイッスルとして機能するため、音を出すための複雑な構造を板の内部に作り込まねばなりません。そのため、レーザー加工機で4枚のヒノキの薄板をそれぞれ異なる形状にカットし、音を出す「弁」をノミで加工し、それを貼り重ねて仕上げます。天然材を使い、微妙な手作業のため、ひとつひとつ音色も違う。それが商品の味わいとなっています。表面にはモールス信号の「S・O・S」を示す幾何学模様があしらわれています。五角形の「合格祈願」タイプは、表面のダルマの左目が小さな空洞になっており、指でその穴を塞ぐと音が出る仕掛けとなっています。今後は、富山の杉や体にも良いと言われる桐などでの商品化も構想されています。

富山デザインウェーブ2017デザイン展
企画展

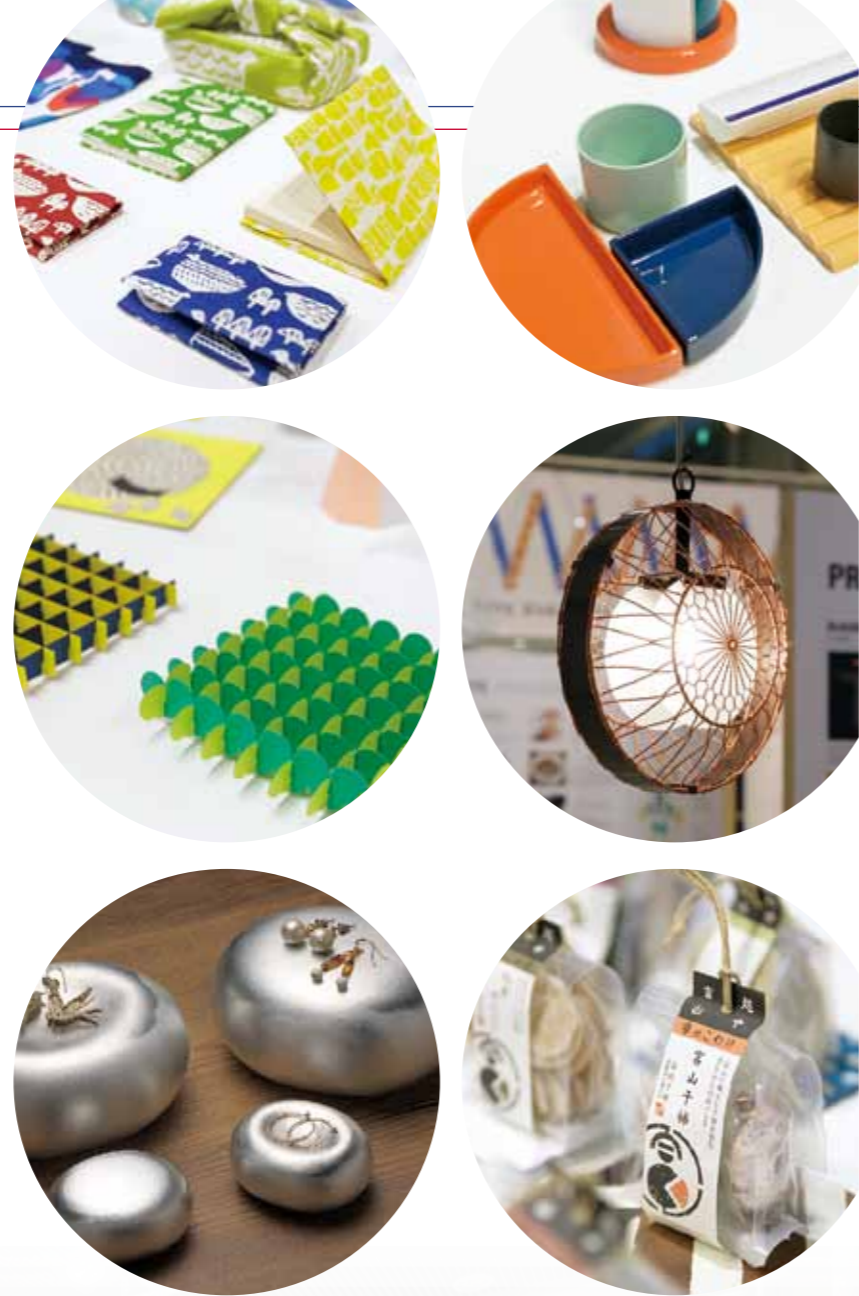
新しい スキーム デザイン

期間:2017年11月13日(月)~26日(日)
会場:富山県産業高度化センター 展示室

これからのものづくりには、コトづくりを促進するスキーム(枠組み)が重要です。成功を勝ち取ってきたプロジェクトは、どのような枠組みで遂行されてきたのでしょうか。

この企画展では、「富山もよう」「福永紙工」など国内外6つのプロジェクトを成功事例として取り上げ、そのスキームを紹介しました。

富山もようプロジェクト
2016/
福永紙工
Hands on Design
TAIWAN TOYAMA DESIGN ALLIANCE
越中富山お土産プロジェクト



富山もようプロジェクト



2016/

北日本新聞創刊130周年の特別企画として、新聞ラッピングから始まったプロジェクトです。テキスタイルデザイナー・鈴木マサル氏によって表現された、色彩豊かで親しみ溢れる10種類の「富山もよう」は、新聞ラッピングの域を超え、富山の地域資産として活用できる新しい価値を生み出しました。

有田焼の伝統技術にデザイナーの感性を融合させ、世界に誇れるグローバルブランドとして誕生した「2016/」。有田焼創業400年を記念して発足したこのプロジェクトは、新商品の開発はもちろん、これまで行われていなかった商社間と窯元間の連携をも促しました。



富山もよう
風鈴(能作)



富山もよう
紙風船(富山スガキ)



富山もよう
名刺入れ、ペン立て(桂樹舎)
手ぬぐい(牛島屋)
ジブシーカバーイット
(富山マラソン/THE NORTH FACE)



富山もよう
北日本新聞ラッピング紙面10種
TATEYAMA/SHIROEBI/
GARASU/MIZU/SYURAKU/
KAISEN/RAICHOU/
SHINKANSEN/SORA/
KUSURIURI



Saskia Diez



Teruhiro Yanagihara



BIG-GAME



Kueng Caputo



Tomás Alonso





福永紙工

福永紙工は、印刷から加工までを行う創業54年の会社。自社ブランド「かみの工作所」を皮切りに、寺田尚樹氏(建築家・デザイナー)との「TERADAMOKEI」や、井上雄彦氏(漫画家)との「イノウエバッジ店」など、「紙」の持つ魅力をデザイナーと共に追求する、7つの個性豊かなプロジェクトを運営しています。



gu-pa



TERADAMOKEI



ペーパーカードデザインコンペ



MABATAKI NOTE



One to Sixteen



イノウエバッジ店



かみの工作所



Hands on Design

Hands on Designは、伝統工芸を未来に受け継いでいくことを目的に、2015年ミラノに誕生したブランド。現在、国境を越えて世界から、19名の職人と29名のデザイナーがプロジェクトに参加し、これまでに90近くの商品が誕生しました。グローバル化する現在のライフスタイルを見据え、新しい伝統工芸のかたちを多種多様に提案しています。



MIKAZUKI SET
職人: 播州刃物
デザイナー: 小林 新也



BUGATTI
職人: 金網つじ
デザイナー: Shiina+Nardi Design



PLIAGE SET
職人: 李荘潔
デザイナー: Denis Guidone



DERVISH
職人: Soffieria
デザイナー: Kanz Architeti



TAIWAN TOYAMA DESIGN ALLIANCE

デザイン交流の促進と、産業振興、人材交流の活性化を目的に連携に関する覚書を締結している「台湾デザインセンター」と「富山県総合デザインセンター」。これら2つのデザイン支援機関が、産業振興の一環として連携して行うプロジェクトがTAIWAN TOYAMA DESIGN ALLIANCEです。台湾のデザインと富山県のものづくりをマッチングさせて新商品開発を行うほか、互いの活動の情報発信や販路支援、人材交流等を目指しています。



Wagashi dessert cutlery
デザイナー: YEN CHEN DESIGN STUDIO



Snowflakes
デザイナー: gridesign studio



NEST
デザイナー: Chen, Chien-Chih



CARTON HOLDER
デザイナー: YOW!design Inc.



越中富山お土産プロジェクト ~幸のこわけ・技のこわけ~

富山県総合デザインセンターが中心となり発足させた「越中富山お土産プロジェクト」。「おすわけ」をブランドコンセプトに、富山の特産品を手軽な食べきりサイズで揃えた「幸のこわけ」、富山を代表する金属、漆芸、和紙、硝子、木工、陶芸などの「技」を県内老舗企業や若手作家の手によって商品化した「技のこわけ」という2つのお土産シリーズで展開しています。



幸のこわけ



技のこわけ





デザインセミナー

オランダのデザインと生活…価値観を探る

日時: 2017年11月21日(火)

会場: 富山県産業高度化センター 2F 会議室

オランダ、デザイン…と言えば、ピエト・モンドリアンの「コンポジション」や、ディック・ブルーナの「ミッフィー」を即座に思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。また90年代以降、「ダッチデザイン(Dutch Design)」は「コンセプトチュアル・デザイン」の別名として、強い影響力を持って世界中の人々に受け入れられています。今回のデザインセミナーは、オランダと日本、両国にわたって活動されているお二人を招き、「オランダのデザインと生活」をテーマにお話いただきました。



講師

ナタリー・デュポア

ユトレヒト・セントラルミュージアム学芸員

プロフィール

アムステルダム大学修士課程、ニューヨーク大学で美術史と博物館学を学ぶ。2000年よりユトレヒト・セントラルミュージアムのデザイン・応用芸術部門で働き、15年にキュレーターに就任。00年以降、6回来日し、日本の工芸に興味を持つ。同ミュージアムはオランダで最も古い公立美術館で、約6万点のコレクションを所蔵。最近手掛けた展覧会に「Rietvelds Meesterwerk: Leve De Stijl!」がある。富山で開かれた「国際北陸工芸サミット」の選考委員も勤めた。



講師

中條 永妹子

MONO JAPAN ディレクター

プロフィール

日本で広告代理店に勤務したのち、2000年からオランダ・アムステルダム在住。ウェブデザイナー、アート&カルチャーイベント等のオーガナイザーとして様々な文化イベントの企画やPRに関わる。15年にJapan Cultural Exchangeを設立。16年より日本のモノづくりに特化した展示・即売会「MONO JAPAN」を開催。ヨーロッパ向けのキュレーションと日本のモノづくりをその背景から伝えることに注力し、日本プロダクトの価値向上と欧州での新しいマーケットの創造を目指して活動中。



Centraal Museum Utrecht



History of Utrecht



Old Masters



Modern and Contemporary art



Fashion Collection



Miffy Museum



Dollhouse Petronella de la court

セミナー1. ナタリー・デュポア

オランダのデザインと生活…価値観を探る

セントラルミュージアムとは

私が勤務するセントラルミュージアムは、オランダ国内で初めての公的な美術館であり、オランダのほぼ中心に位置するユトレヒト市にあります。ユトレヒトは、美しい運河や古いたくさんの教会、そして長崎のハウステンボスに再現されているドムトレンと呼ばれるオランダで一番高い教会などがある中世からの都市です。

ユトレヒト・セントラルミュージアムは、19世紀に市役所内の小さなミュージアムとして誕生しました。その後、1921年に中世から続くセントアグネス女子修道院の建物に移動し、今日に至ります。5万点に及ぶ収蔵コレクションは、2016年に現館長のマルコ・グロブの監修のもとに大きく再編成され、6つのカテゴリーに分けられ展示されることになりました。

6カテゴリーのコレクション

6つのカテゴリーとは、①歴史、②オールドマスターズ(18世紀以前にヨーロッパで活躍していた巨匠たち)、③近現代美術、④ファッション、⑤デザイン、そして⑥ディック・ブルーナ・コレクション、です。

「歴史カテゴリー」は、1930年にユトレヒトで発見された千年前の貨物船をハイライトに、たくさんの都市の風景を描いた資料やコイン、メダルなどで構成されています。

「オールドマスターズ」は、ユトレヒトのカラバッチョニストと呼ばれるヘンドリック・テル・ブルツヘンやヘラルト・ファン・ホントホルストなどのコレクションです。彼らは17世

紀初頭にイタリアで絵画を学び、画家カラバッチョに大きな影響を受け、その手法をユトレヒトへ持ち帰りました。

「モダンアート」のコレクションは、1850年以降の絵画や彫刻で構成され、ヨハネス・ムースマンやバイク・コッホの作品が含まれています。このコレクションの根幹をなすのは、ファンバーレン兄弟によって1925年から64年にかけてコレクションされた、ファンバーレン・コレクションです。絵画や家具、銀器、ガラス陶磁器などのほか、歌川国周などの日本絵画も含まれています。

「ファッション」については、セントラルミュージアムは世界で最も早く、100年前からコレクションを始めました。コレクションの中には、1810年製のウェディングドレスからオランダ人デザイナーによるコンテンポラリーデザインの作品、さらにはコムデギャルソン(川久保玲)やジュンヤワタナベ、イッセイミヤケ、ヨージヤマモトなど日本のブランドも含まれています。

このミュージアムのもう一つのハイライトとなるのが「ディック・ブルーナ」カテゴリーです。ユトレヒト出身の作家でグラフィックデザイナーであった彼の7,500点を超える作品が収蔵されるほか、ミュージアムの屋根裏には彼のアトリエがそのまま再現されています。

そして最後のカテゴリーが、私が担当する「デザイン(応用美術)」です。17世紀の銀器をはじめ、同時代のドールハウス人形の家で構成されています。ドールハウスは、当時の富裕層のインテリアや家庭生活を詳細に再現しており、文化的、歴史的観点からもとても興味深いものです。



Rietveld Schröder house



Vroeg Droog Exhibition



Nienke Hoogvliet



Simone Post



Christien Meindertsma



Dirk Vander Kooij



藍染めを用いたmobile/宝島染工(福岡県)



kitta(沖縄県)



セミナー2. 中條永味子

オランダと日本のモノづくり…MONO JAPANへの誘い

雑誌『デ・スタイル』と「モンドリアンからダッチデザインまで」展

今年雑誌『デ・スタイル』とその関連運動が始まってからちょうど100年を迎えます。『デ・スタイル』はモンドリアンとドゥースブルフを中心として、1917年、オランダのライデンで創刊されました。28年に廃刊になりましたが、雑誌を中心とした建築家やアーティストのグループは、バウハウスに大きな影響を与えるなどジャンルや国境を越えた活動を展開しました。これを記念しユトレヒトでは今年、「モンドリアンからダッチデザインまで」をテーマに、1年をかけた記念イベントが計画されました。記念イベントには市のあらゆる機関やショップなどが参加し、街には『デ・スタイル』の特長である三原色が溢れました。

『デ・スタイル』に貢献し運動にも関わった建築家に、ユトレヒト出身のリートフェルトがいます。彼の作である「スラットチェア」はリートフェルトのアイコンとして有名ですし、「リートフェルトシュレーダー邸」はユネスコの世界遺産ともなっています。彼のコレクションの最大の収蔵者であるセントラルミュージアムでは、このイベントの一貫として大規模な展覧会を開催しました。

ドロークデザインとダッチデザイン

セントラルミュージアムでは、1993年に設立されたドロークデザインのコレクションにも力を入れています。レニー・

ラーマカースとハイス・バッカーによってスタートしたドロークは、設立後すぐに世界中の賞賛を得て一気に世界のデザイン潮流の一部となり、今日ではダッチデザインの象徴となっています。

オランダは高度にデザイン化された国であり、公共建築物の設計や様々なアイコン、公衆電話や郵便ポストなどにデザインの力が様々に取り入れられており、今日では「イノベーションと持続可能性」というテーマで、デザインの実践がなされています。

例えば、海草を材料とした布や顔料を用いた椅子やテーブルを作成したり、魚の皮でレザー作品を追求しているサイナー、ニエンケ・ホーフフリート。廃棄される布を利用してプロダクトを作るシモーネ・ポスト、育成にあまり水を必要としない植物・亜麻を使った家具をデザインしているクリスチャン・メンデルツマ、冷蔵庫をリサイクルした材料を家具づくりに活かすディルク・ファン・デル・コイなどが上げられ、彼らの作品も、セントラルミュージアムのコレクションとなっています。

ユトレヒトの南方の都市アインドホーベンでは、毎年ダッチデザインウィークが開催され、今年も多くのデザイナーがサステナビリティ(持続可能性)に大きな関心を寄せていました。このような取り組みが他の国のデザイナーにも受け入れられ、デザインがよりクリーンでより良い世界の創造に貢献できることを期待しています。

〔講演趣旨〕

- 「MONO JAPAN」は、オランダの首都アムステルダムで、年に一度開催される日本のクラフトやデザインプロダクトに特化した展示・即売会。2016年の第1回に続き、2回目の今年は2月2日～5日の開催となった。
- 会場となったのは、アムステルダム中央駅から2キロほどの距離にある、世界中に多くのファンを持つロイドホテル。主催団体はJapan Cultural Exchange (JCE) とロイドホテル(Lloyd Hotel & Cultural Embassy)である。
- これまで欧州では日本らしさを前面に出した商品が多く流通してきたが、「MONO JAPAN」では、ヨーロッパのライフスタイルにフィットした高品質の商品をセレクトし、日本ならではの伝統的なモノづくりの世界観を伝えながら、モノとその背景にある文化的な魅力を訴求していくというもの。
- 2017年には、Arita(佐賀県)、830デザインラボ(東京都大田区)、Aizu Creative Japan(福島県)、淡路市商工会(兵庫県)、kitta(沖縄県)など合計26組が出展した。
- 4日間の開催を通じて来場者3,200人、プレス関係300人、メディア28組(オランダ20組、日本8組)を記録した。

- 展示の特長は、各出展者にはホテルの部屋1室があてがわれ、生活の延長で展示が行われること。バイヤーだけでなく消費者も展示場を訪れ、作り手との会話を楽しみながら作品とふれあうことができる。
- オランダ・アムステルダムは、ロンドンやパリと並ぶ欧州の有望な市場として注目する日本企業も多く、近年ショップの出店も増えている。
- 2018年は2月15日～19日の開催を計画しており、現在出展者の受付を行っている。2018年のテーマは「コラボレーション」。日本とオランダの間で生まれたプロダクト、デザインとアート、伝統とイノベーションなど、ボーダレスなモノやコトが集まる場として企画しており、オランダのクリエイター、ボネ・スーツとクリスチャン・メンデルツマによるコラボレーション・プロジェクト計画している。
- 会場のロイドホテルでは客室が展示空間となるため、他の大規模展示会のようなブース作成の費用も不要。来場者はバイヤーなどプロと一般来場者の両方。BtoB、BtoCの両面で「日本のMONO」ファンを育てていきたい。富山の企業の積極的な出展を待っている。

EVENT

富山から発信するクリエイティブの新しい波

富山県内のデザイン関連イベント

「富山デザインウエーブ2017展」の開催に前後して、富山県内では富山市・高岡市を中心に、デザインに関するさまざまなイベントが開催されました。時代をリードするデザインや、伝統に根ざしつつ現代のライフスタイルとのマッチングを志向するクラフトなどの作品に触れようと、県内外から多くの人々が集いました。

工芸都市高岡2017クラフト展

会期:9月22日(金)~24日(日)
場所:大和高岡店 4F 催事場

全国公募「高岡クラフトコンペティション」の入選・入賞作品が一堂に展示され、お気に入りの作品を購入することもできる展示会として人気を博しています。31回目を迎える今年は、応募点数1,350点のうち524点が入選・入賞。グランプリには北奥美帆氏(岐阜県)の「筆跡」、佐々木伸佳氏(静岡県)の「線銀彩蓋物」が選ばれました。



筆跡



線銀彩蓋物

高岡クラフト市場街

会期:9月22日(金)~24日(日)
場所:山町筋を中心として
高岡駅および周辺、
御旅屋通りなど



「観る」「買う」「体験する」「食べる」をキーワードに、クラフト作品、地場のものづくり、地場の食材等高岡の魅力を満喫できる多彩な催しが行われました。

銅器団地 オープンファクトリー

会期:9月22日(金)・23日(土・祝)
場所:高岡銅器団地



今年初開催、高岡銅器の技術を、広く一般に公開するイベント。来場者は銅器団地の各会社の製作現場を見学。400年の伝統の技に触れました。

金屋町楽市 in さまのこ

会期:9月23日(土・祝)~24日(日)
場所:高岡市金屋町石畳通り一帯



高岡銅器発祥の地であり千本格子の景観が残る金屋町石畳通り一帯を会場に、工芸作品の展示・販売、お茶会などを通じて、地域の魅力を発信しました。

富山デザインフェア2017

会期:9月29日(金)~10月1日(日)
場所:富山市民プラザ
デザインサロン富山

21回目の開催を数える今年は、県内企業・クリエイター、日本トップクラスのクリエイターによるパッケージデザインや広告、ポスター、ディスプレイなど、商業デザイン分野の作品展示をはじめ、アートディレクター宮下良介氏(電通)によるデザインセミナーや若手デザイナー等を対象としたデザインスクールのほか、全国の学生を対象としたパッケージデザインコンペ作品の展示などが行われました。



第57回富山県デザイン展

会期:11月10日(金)~12日(日)
場所:富山県高岡文化ホール 1F
多目的小ホール ほか

今年で57回目を迎える、県内公募展の草分けとなるイベント。建築・環境、インテリア・ディスプレイ、グラフィック、工業デザイン、クラフト・ファッション、デジタルコンテンツなど多彩なジャンルの作品が展示されました。招待審査員に木住野彰悟氏、太刀川瑛弼氏、永山祐子氏を迎えた審査会で、金森健司氏(富山スガキ)の「有磯 曙」が富山県知事賞に、学生建築デザインコンペでは筒井伸氏・村井千乃氏(信州大学/富山大学)の「まちの坪庭」が最優秀賞に輝きました。



有磯 曙

まちの坪庭



富山で生まれる、次のデザイン。

toyama design wave

| | |
|---------------|--|
| 発行日 | 2018年2月1日発行 |
| 編集・発行 | デザインウエーブ開催委員会 |
| 事務局 | 富山県総合デザインセンター 〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク5番地 TEL.0766-62-0510 FAX.0766-63-6830 ホームページ http://dw.toyamadesign.jp/ |
| 主催 | デザインウエーブ開催委員会 |
| 共催 | (株)富山県産業高度化センター (一財)富山県産業創造センター、(公社)富山県デザイン協会 |
| 後援 | 経済産業省中部経済産業局、(公財)日本デザイン振興会、 (公社)日本インダストリアルデザイナー協会、 (公財)富山県新世紀産業機構、 (独法)日本貿易振興機構 富山貿易情報センター、 北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、 中日新聞富山支局、日本経済新聞社富山支局、日刊工業新聞社、 朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局、 📺📺📺 富山放送局 、 北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山エフエム放送、 (一社)富山県アルミ産業協会、富山県プラスチック工業会、 富山・ミラノデザイン交流倶楽部、高岡商工会議所 |
| 監修 | 桐山登士樹 |
| 編集・構成 | 大矢寿雄／仁木久司／岡雄一郎／五十嵐瞳／大和松雄／窪英明／ 堂本拓哉／吉田絵美／平野尊治／玄千賀子 |
| クリエイティブディレクター | 加藤嘉一郎 |
| デザイン | 水巻さゆり |
| ライター | 中谷裕也 |
| 撮影 | 道林伸一／本田万里 |
| 印刷・製本 | とうざわ印刷工業(株) |